

コード	103050109
記入日	H23.5.30

事務事業途中評価表

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	田本 耕一
担当者	荒木 順一郎

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	宿ノ浦～若松間運行業務委託事業
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	7
施策コード	103	施策名称	しさを支える交通基盤づくり	項コード	1
基本事業コード	10305	基本事業名称	バス交通の充実	目コード	1
事務事業コード	1030501	事務事業名称	地区交通整備事業費	細目コード	1029
関連計画	新上五島町交通体系再編計画		法令・条例規則等		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	宿ノ浦～若松間運行便数	(対象指標1)	833回			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・ デマンド (予約) 乗合タクシー運行により、料金を設定した運賃を運行業者が受領して運行した。 →事業費 5,293千円	① 運行路線	1路線	100%	運行路線実績数+運行 予定路線数	***** 平成22年度
		(達成率分析)	運行路線1路線に対しデマンド乗り合いタクシーの運行を行った。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・ 宿ノ浦地区及び白魚地区に陸上交通のデマンド (予約) 運行をすることにより、無駄な運行をやめ、海上交通に係っていた経費削減と悪天候時の旅客船の運休状況をなくし、効率的な地区住民の移動手段を確保する。	① 運行回数	833回	100%	運行回数833回+運行 予約回数833回	***** 平成22年度
		(達成率分析)	運行予約に応じたデマンド運行を行った。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	①	件	3	3	2	1	1			
	②									
成果指標	①	回	2,248	2,248	1,415	833	833			
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	11,943	11,943	5,951	5,992	5,992				
直接事業費 A	千円	9,843	9,843	4,551	5,292	5,292				
人件費 B	千円	2,100	2,100	1,400	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	11,943	11,943	5,951	5,992	5,992				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	デマンド運行による、有効な運行が必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	近年の交通環境を取り巻く社会情勢に応じた施策の見直しが必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	天候に関係なく運行できるので、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	交通再編計画に則った交通手段である。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	運行実績に応じた運行形態の見直しを行う。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地区住民の交通手段がなくなる。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	地区が離れているため、統合できない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	適切な見積りにより削減できる。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	最小の人員で行っており削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	町営バスの運行料金に準じた料金設定である。

改善

改善策	1次評価	妥当性	計画通りなので、現在のところ見直す必要はない。
		有効性	有効な交通事業を模索するためには、必要である。
		効率性	計画書に基づいて、交通事業費の削減と有効活用を図る。
		課題に向けた改善策	利用状況を勘案しながら、運行計画の変更を検討していく。
	2次評価	妥当性	地区住民の生活確保のための交通手段であり妥当である。
		有効性	地区住民の利便性の向上を図るため、デマンド方式の有効性を確認し、検証すること。
		効率性	今後更に交通再編等の課題解決に向け、交通体系の効率的なあり方を検討していくこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。